

My Town
わが街

My Friend
わが友

Mari
マリ
Christine
クリスティーヌ



米陸軍の情報部に勤務していた父にとって、世界中がいっぱい「職場」でした。私も、父の転属でドイツ、米国、イラン、タイなどに移り住みました。今は、四歳までの日本での幼いころの思い出をよみがえらせたいと思います。

日比谷の第一生命本館にあった連合国軍総司令部（GHQ）から、有楽町の三信ビル（悲しいことに先日、閉鎖されましたが）にオフィスが移

った父は、原宿のワシントンハイツから毎朝八時に出勤します。わが家には薄いブルーのフォルクスワーゲンがあり、父を送り出した母は、夏になるとよく私を乗せて祖母の故郷、神奈川県葉山町にドライブしました。

そのころには三つ違いの妹も生まれていました。当時はマイカーを持っている人は少なく、吉田茂首相が大磯の邸宅から国会の開かれる東京に



ワシントンハイツの跡は代々木公園に（本社へ「おおづる」から）

2

原宿

菓子のおんこ屋さんがあって、店のおばあちゃんからもらったあんこをよく食べました。私は「あんこパーバ」と言って親しんでいました。近所には清水金次郎（シミキン）とともにボードピリアンとして人気があったキドシン、木戸信太郎さんが住んでいて、晩ご飯のおかずをよくおすそ分けしたりしました。近くにはカツレツのまい泉が今ありますが、もともとは銭湯があったそとです。私もよく両親に連れられて行ったと

いいです。同じ原宿でも、祖母の周囲には昔ながらの近所付き合いが残っていたように、米国人ばかりのワシントンハイツとは別の世界が広がっていました。

向かうために通したという、通称「ワンマン道路」がありました。今と違って渋滞はまったくなく、「都内から二時間ほどで葉山に着いたものよ」エ母から聞かされました。祖母は原宿の東郷神社の近くに住んでいて、よく遊びに行きました。斜め前には和

私はその二つの世界を行ったり来たりしていたことになります。仕事柄、世界中を駆け回る私ですが、異なった環境でもすぐに溶け込めるといふ特技は、このころに養われたのかもしれない。（異文化「コミュニケーション」も）

全10話

同じ地域に二つの世界